

国語

(五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点も一字と数えます。)

ある年、夏の暑い日に京都へ行き、東本願寺を訪れた。山門に足をふみ入れ、涼風がかすかにわたつて来てホツとするのと、^①おおいかぶさるような本堂の建物が目に入るとがほとんど同時である。あつと一瞬息をのむ思いがした。そこから本堂の屋根の上に空が見えたかどうか記憶がたしかでないが、建物の端から端までは頭をめぐらさなければ見極めることができなかったのははっきり覚えている。山門と本堂との距離が意外に近くて、容易に本堂を一望できないようになっているのである。

おどろくべきことだと思つた。常に仰ぎ見るのでなければ本堂の全貌はながめられない。このことが信仰に及ぼすであろうデリケートな効果を、宗教的天才たちは、ちゃんとあらかじめ計算に入れていたにちがいない。そういうわけで、その大伽藍に圧倒される思いだったが、信心のうすい身には、もうすこしゆつたりした寺のたたずまいがほしい、といくらか不満でないこともなかった。□、この建物は一宗の信仰をつなぐ政庁であつたわけだから、^⑤そんな遊び心などもつてのほかのことで、まず、権力の象徴が理屈をこえて見るものの中に伝わって来るようであればならぬのであろう。その点はたしかに成功している。

寺の建物が、観光客の鑑賞に供される末世を予想していたら、同じ天才たちもやはり別の、□、同じようにおどろくべき工夫をしておいてくれたであろう。東本願寺の建物は、設計者の考えによって、わざと美しさという名の弱さをさけたものと思われる。

(外山滋比古『省略の文学』より)

* 東本願寺：浄土真宗大谷派の本山。 * 山門：お寺の正門。 * 伽藍：お寺の建物。

* 一宗：仏教の一つの宗派。 * 政庁：お役所

問一 ——— 線①「おおいかぶさるような本堂の建物が目に入る」とありますが、このときの筆者の気持ち
を、五字以上八字以内で、文章中から二つ抜き出さない。

問二 ——— 線②「建物の端から端までは頭をめぐらさなければ見極めることができなかった」のはなぜで
すか。理由となる一文の、初めの五字を抜き出さない。

問三 ——— 線③「計算」とは、どのような計算ですか。文章中の言葉を使って説明しなさい。
問四 ——— 線④「信心のうすい身」とは誰のことですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 宗教的天才たち イ 筆者 ウ 観光客 エ 寺の設計者
問五 ——— 線⑤「そんな遊び心」とはどのようなものですか。文章中から二十二字でさがし、初めと終わ
りの三字を抜き出さない。

問六 □に共通してあてはまる言葉として適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ だから ウ しかし エ つまり オ なぜなら

問七 あなたの「心に残っている建物」について、理由もふくめ、百字以内で自由に書きなさい。

平成二十七年 度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅱ】 その二
国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点も一字と数えます。)

少女は毎朝、きま^①った時間に、通学かばんをさげて坂道をくだる。

坂の下には、最近、団地ができたが、この坂^②まではまだ舗^ほそうもどどかず、道はたには小さな草の芽が青い。

その坂をくだりきるあたりで、少女はいつからともなく、一台のうば車とすれちがうようになった。黄いろい小さなうば車に、くりくりふとった赤ん坊をのせて、若い母親がゆっくりと押^おして。少女が坂の下についてふりかえると、なだらかではあるが長い坂を、うば車は、車輪の金具を光らせながら、いつもしずかにのぼってゆく^③のだった。

毎日のことで、顔なじみになつてからも、どちらも口をきくでもない。少女は若い無^む愛^{あい}想^{そう}さで、母親もまた無口なたちなのか、おたがい意識はしていても、いつもだま^④ってすれちがってゆく。

それでも少女は、坂をくだりきるまでうば車の姿が見えないと、なにかものたりない感じで、ちよつと立ちどま^⑤って、あたりを見まわしたりする。そして、むこうの角をゆっくりとまが^⑥ってくるうば車の、あざやかな黄が目にとまると、なんとなく安心して学校へいそぐ^⑦のだった。

やがて夏がすぎ、秋が来て、制服のスカートがスラックスに変わるころ、少女は、かぜをひいた。学校を休むまいと、はじめに無理をしたためにこじらせて、熱が高い。一日だけと思^⑧った欠席が、とうとう一週間にまでびた。

ここまで休んでしまうと、こんどは学校へ行くのがおっくうになる。テストが近いのに、ノートはかなりの部分が空白のまま。いっそ二期の終わりでまで休んだほうがよかつたかと、なかばやけっぱちなことを考えながら、少女は重い足どりで坂をくだ^⑨った。それでも、心のすみでは、やはりいつもの習慣をわすれていなかったの^⑩だろう。坂をくだりきるところで、少女はふと立ちどま^⑪った。見なれたものが見えない。黄いろいうば車がまだ来ない……。

あの赤ちゃんもかぜをひいたのかもしれない、と思^⑫いながら、あきらめてふたたび歩きだしたとき、少女は思わず、口の中で小さな声をたてた。

目のまえに、あの子^⑬がいた。母親に手をひかれて、顔じゆうを笑みにくずし、小さな青いくつで、しつかりと土をふみしめて。

母親は、少女にもはじめて笑顔をむけて、子どもに声をかけた。

——さあ、行こうね。ゆっくり、ゆっくり。

子どもは、しんけんな顔をして、慎重^{しんちょう}に足をふみしめながら、いっぼうでは、一歩一歩、くつをとおして足うらに^⑭つたわ^⑮つてくる大地の感^{かん}触^{じゆく}をたのしんでいるらしい。

少女は歩きながら、ふりかえ^⑯って、そのあとを見お^⑰く^⑱った。

長^{なが}い^⑲長^{なが}い^⑳坂^㉑が、子どもの目のまえにある。坂の上に、青い空が見える。子どもはいま、自分の足で、その坂道をのぼろう^㉒としていた。ひと足ずつ、ゆっくり、ゆっくりと。

少女は、きゆうにしゃんと背をのびして、歩きだした。

吹きぬける風が、ほほにこころよい。このさきは、平地の街なみがつづくの^㉓だけ^㉔れ^㉕ど、少女はいま、自分の目のまえに、長^{なが}い^㉖長^{なが}い^㉗坂^㉘を見ていた。あのおさな子とおなじように、その坂を一歩一歩たど^㉙って^㉚ゆく、若い健康な自分の足を感じていた。

(杉みき子『小さな町の風景』より)

問一 ——線①「きま^①った時間に」は、後のどの部分に係っていますか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 通学かばんを

イ さげ^②て

ウ 坂道を

エ くだる

問二 線②「この坂」とは、どのような坂ですか。文章中の言葉を使って、二十字以内で答えなさい。

問三 本文を二つに分けると後半はどこから始まりますか。初めの五字を抜き出しなさい。

問四 線③「……」にこめられた少女の気持ちと正反対の気持ちを表す言葉を、文章中から二字で抜き出しなさい。

問五 線④「あの子」と同じ人物を、擬態語を使って表現している部分があります。文章中から十一字で抜き出しなさい。

問六 線⑤「母親は、少女にもはじめて笑顔をむけて」とありますが、このとき母親が少女に笑顔をむけた理由として、最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 重い足どりで坂道をくだってきた少女を、はげましたいと思ったから。

イ 子どもの健康を気づかう少女に、感謝していたから。

ウ 子どもが歩きはじめたことに、喜びを感じていたから。

エ 少女にも自分の子どもと同じように、元気に歩いてほしかったから。

問七 線A・B「長い長い坂」とありますが、少女は「長い長い坂」を何と重ねて見えていますか。

三 次の線のカタカナを漢字に直し、漢字をひらがなに直しなさい。

① パーティーにシヨウタイされる。 ② ばくだいなリエキを上げる。 ③ 大方のサンドウを得た。

④ 子どもにザイサンを残す。 ⑤ 納税のギムをはたす。 ⑥ キュウユウと再会した。

⑦ 車の燃料を補給する。 ⑧ 国家に忠誠を誓う。 ⑨ 川の源をさぐる。

四 次の線のカタカナを漢字に直し、()の意味をもつ慣用句を完成させなさい。

① イキが長い (意味) 長続きすること

② カン髪を入れず (意味) すぐさま

③ 襟をタダす (意味) 気持ちを引き締めること

④ ネを上げる (意味) 苦しさにたえられず、降参すること

五 次の□に言葉をあてはめて、()の意味をもつことわざを完成させなさい。

① あぶ□とらず (意味) 二つのものを同時に得ようとしても失敗すること

② 帯に短し□に長し (意味) 中途半端で使い道がないこと

③ ころばぬ先の□ (意味) 失敗する前に用心しておくのが重要であること

六 次の漢字の部首名をひらがなで答えなさい。また、それぞれの部首は何画か答えなさい。

① 蚕 ② 刻 ③ 質

七 次の()に漢字一字をあてはめて、①・②は類義語を、③・④は対義語を完成させなさい。

〈類義語〉 ① 観光 — 見 () ② 内容 — 中 ()

〈対義語〉 ③ 原因 — () (果) ④ 後退 — () (進)